

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： データリッチな海洋への挑戦とそれに基づく台風高波の実態解明
2. 研究代表者： 志村 智也（京都大学 防災研究所 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、新しい観測手法を利用し、波浪を含む台風モデリングの刷新により、高波と高潮、さらに台風の予報と将来想定を劇的に改善させ、想定外の台風災害の低減を目指す研究である。フェーズ1では、開発したブイによる直接観測、地震計による間接観測、リモートセンシング観測、それぞれについて計画通りの成果が得られている。解析はもとより、衛星と独自開発のブイを使う観測、および高風速化の海面運動量フラックスが飽和することを発見されたことは、高く評価できる。

フェーズ2では、台風+波浪結合モデルの「結合」に関して、単なる解析の連成ではなく、波浪結合モデルのためのデータ同化手法への発展、平常時の観測へ還元する仕組みなど、より革新的な研究開発を期待する。海外展開も視野に入れて、普遍的な知見の獲得、サイエンスへの挑戦に繋がる成果を目指すことを望む。

以上